

## サービスラーニング活動を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 熊澤 武志

活動先：NPO 法人 絆

クラス：村上 徹也 先生

### 1. どんな NPO でどんな活動をしたか

私は NPO 法人絆で夏休みの間サービスラーニング活動をさせていただいた。NPO 法人絆では、①「困ったときはお互い様」の心で助け合い、助け合いの輪を地域に広げ、②一人一人の困難に向き合い、その人がその人らしく生活できるよう、心に寄り添う支援を行い、③世代を超えた人と人との絆を大切にし、お互いに学びあい、支え合いながら、生きがいや自己の実現につなげることを趣旨としている。事業内容としては、たすけあい事業では介護、家事援助、入院時援助、外出支援、子育て支援、デイホームがある。また、通院、買い物などの送迎が行われている。介護保険事業では、デイサービスが行われている。内容としては、送迎、入浴、昼食、レクリエーションが行われている。障害福祉事業では、さくさく工房と称して障害者自立支援法による生活介護、送迎、入浴、昼食、レクリエーションが行われている。いきいき広場絆では、さをり織りや、研修会、手作り品販売、イオンモール東浦内の福祉の店「フクシア」で手作り品の出品を行っている。東浦町委託事業では、365 日配食サービスを行っている。

このような活動を行っている NPO 法人絆で私は夏休み前の事前訪問と夏休み中、活動最終日のきずなまつりの準備と当日の運営を行うことになった。一日目はチラシ案の提出・作成、ポスター作りを行った。一日目から効率よく作業を進めていくために、ポスターを作るにあたってパソコン係、字を書く係、絵を描く係に分かれて作業を行っていった。二日目は、私たちが提案したきずなまつりでのスタンプラリーの作成に取りかかった。スタンプラリーは子どもも楽しんで NPO 法人絆のことを知ってもらおうという考えから行うことにした。また、一日目に作成したポスターの色塗りをデイサービスでレクリエーションとして利用者さんとともに行った。三日目は近隣の施設やスーパーにきずなまつりの宣伝とチラシ配りをした。また、以前近隣の方にいないものを景品として寄付してもらおうよう募集し、いっぱい集まったものの整理を行った。四日目と五日目はずっときずなまつりの準備に取り掛かった。去年の企画の土台など使えるものは使いまわしていくようにし、飾りつけなどでよいものにしていった。五日目は他にまつり当日近隣の方に騒音など迷惑をかけてしまうのでそのあいさつ回りをした。そして、最終日はきずなまつりを行った。多くの方が参加していただき、利用者の方だけでなく利用者の方の家族や近所の子どもなど多くの方にきずなまつりを楽しんでもらうことができた。ボランティアやガールスカウトなど手伝ってくださる方も多く、職員さんも学生も休憩時間ができ、まつりを楽しむことができた。

## 2. 活動での学び、成長、気づき

自分自身がこれまで苦手としていたことに多く取り組み挑戦をしていくことができた。私は自分の意見を人に伝えることや自分から率先して物事に取り組むことがとても苦手だった。サークル活動や授業の中での話し合いでも自分から司会進行をやるタイプではなく、話を振られたら答えるというようなタイプであった。しかし、サービスラーニングでは受け身の姿勢ではなく、自分たちから施設の方へ行動を起こしていかなければいけなかった。どうしても自分から進んで意見を言ったり企画案を提案していかなければいけなかったの、自然と自分から意見を言ったり企画案を提出しその説明をしたり、気になったことについて職員さんに質問していくことができた。

きずなまつり当日の天候は不安定ではあったが開始時刻ごろには天候が回復し多くの方に楽しんでもらうことができた。きずなまつりには職員の方の協力だけでなく、ボランティアの方も協力してくださった。ここで、私たち学生は活動の中で準備してきた企画の担当になったのだが、当日ボランティアの方への指示を出すことを知り、仕事内容など伝えていかなければいけなかった。少し戸惑ってしまったところもあったが、ボランティアの方に各企画のルール説明や景品についてなど学生側から指示を出していくことができ、自分が言ったことがまつりに良い影響にも悪い影響にも繋がることを知りつつ、自分でも人に指示を出していくことができるという自己成長につながった。

## 3. サービスラーニング全体を通して地域活動や市民活動について理解したこと

地域とNPOとのかかわりの中で活動の中から一番思ったことは、NPOを必要としている人がいるということである。活動先のNPO法人絆は困ったときはお互い様の心で誰でも相談を聞いたり、できることは何でもしていくといったことをしている。そのため、NPOの存在をしている人にとっては必要になったときに相談をして活用していくことができる。しかし、NPOがどういった機関か知らなかったり、支援を必要としていてもNPOの存在を知らないがゆえに活用できていない人もいるということも活動の中から知ることができた。

## 4. 来年度の学生へのメッセージ

メッセージとしては、活動に行くにあたって明確な目標を持って積極的に取り組んでいくことの大切だ。サービスラーニングは自分から積極的に活動に取り組んでいかないといけないので、六日間の間で達成できる明確な目標立てと、そのための積極性が必要である。

また、夏休みの六日間を苦と思わずに楽しんで活動を行ってほしいということである。私は、サービスラーニングへ行って職員の方とも利用者の方とも毎回楽しんでお話をしたり活動をしていくことができた。楽しくないと夏休みの六日間はとても大変で行きたくないと思ってしまうかもしれないが、活動を楽しめば活動に取り組む意欲も高まりとても有意義な活動になると思うので、楽しんで活動に取り組んでいったらいいと思う。